

事業効果の発現状況の捉え方について

<担当課：河川砂防課>

事業名	事業の背景・必要性（目的）	事業効果の発現状況
広域河川改修事業 <事業内容> 全体改修延長 L=10,071m 〔新田名部川工区 L=5,421m〕 〔田名部川工区 L=2,500m〕 〔小川工区 L=2,150m〕 堤防工 L=19,715m 掘削工 L= 9,686m 護岸工 L=16,833m トンネル工 L=675m 等	田名部川は、現況流下能力が低く、これまで度々浸水被害が発生していたことから、自然環境の保全に配慮しながら河川改修工事を行い、概ね50年に1回の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させて、田名部川沿川の人家や田畑を洪水被害から守る。	<p>【想定した事業効果】（既存）</p> <p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水氾濫による被害防止効果（家屋、家庭用品、農作物等） <p>《その他の効果》</p> <p>—</p> <hr/> <p>【事業目的の達成状況】</p> <p>アンケート調査結果の「必要度」や「達成度」、「環境変化」、「その他効果」等から、想定した事業効果について把握するとともに、その他の効果（金銭価値化できない効果：交通途絶による波及被害防止効果など）についても考察する。</p>